

山北町立岸幼稚園

研究テーマ：自然と出会い体験する中で豊かな心を育む

1 実践の目的

子どもたちが自然とふれあうことで得られる経験は、豊かな感性をつちかうことにつながっていく。自然の中で得る学びを大切にして保育を紡いでいくことは重要であると考え、山北の自然を生かして保育を進めていくことを焦点にした。

子どもが自然に親しみ興味が膨らましながら、自然の中で遊ぶ楽しさを感じ、また地域の交流をとおして豊かな心を育みたいと考え、研究主題を「自然と出会い体験する中で豊かな心を育む」とした。

2 実践の内容

（1）重点テーマについて

重点テーマを「様々な出会いの中で山北の自然を知る」と設定した。その中で以下の3点をキーワードとして研究を進めた。

①心動かされる自然体験

- ・計画を立て園外に出たり、地域の方に身近な自然について教えてもらったりすることで教師も身近な自然について知る。
- ・教師も一緒にワクワク、ドキドキする感情体験を味わい、思いを共感する。
- ・保護者や子どもが興味をもてるようなマップで可視化する。

②異年齢

- ・グループ活動やふれあい遊びなど、かかわりの機会を増やし、対話力や伝え合う力を育めるようにしていく。
- ・自分の考えや気持ちを表現できるように、教師が言葉を具現化し、子ども同士をつな

げていく。

③交流

- ・他園との交流を計画し、回数、行き方等を考えかかわりが深まるようにする。
- ・交流後の成果や課題を共有し、次回に活かしていく。
- ・地域の行事に参加し、園ではできない体験を通して山北の自然や文化に触れる。

（2）園での取り組みの様子

①心動かされる自然体験

園外保育で子どもが発見した山北の身近な自然を可視化（散歩マップ）し、子どもと共有することで園周辺の自然に興味をもつきっかけとなった。目的地までの道のり（散策）を大切にし、時間を確保することで自然の変化や反応に気づき、友だちと発見を楽しむ姿がみられた。四季折々の自然体験をとおして“綺麗”“面白い”“不思議”など心が動き、わくわくする感動体験を重ねることで心の成長にもつながった。



発見したどんぐりや烏瓜、落ち葉などをイラストにしたシールで可視化した。

②異年齢

少人数保育の課題の一つである子ども同

土のかかわりの少なさを補い、より豊かにするために今年度も異年齢同士のかかわりを大切に活動した。また、今年度は職員の異動もあり、改めて保育の進め方や異年齢保育の良さ、必要性を教職員間で共有した。

教師が子ども同士の育ち合いを意識し、異年齢活動を増やしたことで、他児への憧れや思いやりなどの心の成長につながっていた。



声をかけあい試行錯誤し、協力し合いながらプールの氷を集める子どもたち

③交流

地域とのかかわりを継続してきたことで、園や子どものことを知り協力してくれる地域の方とのつながりが深まっている。“焼き芋”“果物の収穫”“染め物”など、どれも地域の協力があってこそできる体験であり、教師以外の大人とかかわる経験は人への安心感、新たな発見や学びにつながった。

また、今年は3園のつながりも意識し、園同士の交流も行うことができ、様々な人とかかわる力の源となった。



地域の協力のもと焼き芋作り

(3) 0歳から15歳までの一貫教育・保育

異校種間で積極的に話し合う中で、小学校の生活科で、園の環境構成を取り入れるために来園したり、5年生の手作り紙芝居交流を実現したりと、今までになかった形の交流を行うことができた。気軽に行き来



5年生との園外交流

できる関係性は、一貫教育・保育の成果である。また、5年生との園外交流では目的地まで“一緒に手をつないで歩く”など交流の形を少し工夫することで相手との距離が近くなり自然なかかわりのきっかけとなった。他にも様々な交流をとおして児童への憧れや進級への期待、安心感につながっている。

3 実践の成果と課題

- ・虫や身近な自然に対して興味、関心をもつ子が増えた。
- ・散歩マップをとおして身近にある様々な自然に意識を向け興味をもつことができた。
- ・散歩の方との関係性ができてきたことで、相手からの発信や園を理解して力を貸してくれることが増えている。
- ・継続した顔の見える関係で新たな交流ができた。

4 今後の展開

- ・3園のつながりを意識したことで交流の回数も増えてきた為、今後も持続可能な範囲を他園と調整しながら進めていく。
- ・散歩マップの活用・掲示方法を工夫し、子どもがより興味をもてるようにしたい。
- ・日々の保育の振り返り方法を工夫し、短時間で共有できるようにしていきたい。